

平成 28 年 8 月の解説（週間天気予報）

【8月の天候状況】

上旬は、北日本から西日本にかけて高気圧に覆われて概ね晴れたものの、北・東日本では上空の寒気や湿った気流の影響で局地的に大雨となりました。1日から3日にかけては、上空に寒気を伴った低気圧が東日本から北日本へ北上したため、北・東日本を中心に大気の状態が不安定となって雷雨となり、非常に激しい雨となったところもありました。旬の後半は、本州付近で太平洋高気圧が強まって概ね晴れて各地で猛暑日となりました。

中旬は、高気圧の勢力が黄海付近で強く、東日本日本海側と西日本以西では旬を通して概ね晴れて、北日本と東日本太平洋側でも旬の前半を中心に概ね晴れました。特に西日本では、背の高い高気圧に覆われたため、旬間日照時間もかなり多くなり、顕著な高温となりました。北日本と東日本太平洋側では、台風や湿った気流の影響を受けやすく、特に、北日本太平洋側では旬降水量が平年比 326%となり、8月中旬として1位の多雨となりました（統計開始は1961年）。15日には、台風第6号が北海道の南東海上から根室半島を通過したため、北海道地方のオホーツク海側や太平洋側では荒れた天気になったほか、東北地方から西日本でも局地的に大雨となりました。また、16日から17日には台風第7号が関東から東北太平洋側の沿岸を北上し、北海道地方に上陸しました。このため、北・東日本では太平洋側を中心に大荒れの天気となり、記録的な大雨となったところもありました。

下旬は、旬の中頃にかけては高気圧の勢力が黄海付近で強く、東日本日本海側と西日本以西では概ね晴れて気温の高い状態が続きましたが、旬の終わりは寒気が流れ込みかなりの低温となった日もありました。一方、北日本と東日本太平洋側では、中旬に引き続き台風や湿った気流の影響を受けやすく、旬降水量はかなり多くなりました。20日から21日にかけては、台風第11号が関東の東から三陸沖を北上し、北海道地方に上陸しました。北・東日本太平洋側には湿った空気が流れ込み、関東甲信地方や北海道地方では局地的に大雨となりました。22日には台風第9号が関東地方に上陸し、23日にかけて東日本から北日本を縦断しました。このため、北・東日本では太平洋側を中心に大荒れとなり、各地で大雨や暴風による災害が発生しました。その後も、29日に関東の東海上を北上し30日に東北太平洋側に上陸した台風第10号の影響で、北日本から東日本の広い範囲で大雨となり、北日本太平洋側を中心に各地で大雨による災害が発生しました。

月平均気温は、沖縄・奄美でかなり高く、北・東・西日本でも高くなりました。月降水量は、北日本でかなり多く、東日本太平洋側でも多くなりました。月間日照時間は、北日本日本海側と西日本でかなり多く、北日本太平洋側と東日本日本海側でも多くなりました。

【8月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は、例年値^{（注）}より10ポイント高い75%でした。各地方の適中率では、沖縄地方以外の全ての地方で例年値より高くなりました。特に東北地方および西日本の各地方では10～18%高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より0.3小さい2.1となりました。各地方の予報誤差は、九州北部地方と沖縄地方以外の全ての地方で例年値より小さくなり、特に北陸地方で0.5小さくなりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値と同じ1.6となりました。各地方の予報誤差は、概ね例年と同様でした。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【10月の週間天気予報の利用にあたって】

秋から冬にかけて日照時間が次第に短くなり、気温も急激に下がっていきます。10月は秋晴れとなる日が多く、行楽の機会も増えますが、気温の変化が大きい時期でもありますので、週間天気予報を利用する際には天気だけでなく気温にも注意して下さい。また、北日本や本州の標高の高い山では雪が降ることもあります。週間天気予報で予報される気温は平野部を対象としていますので、平地は秋でも山は冬に近づいているということにもご注意ください。